

**学校法人四條畷学園  
四條畷学園短期大学  
機関別評価結果**

**平成 20 年 3 月 19 日**

**財団法人短期大学基準協会**

## 四條畷学園短期大学の概要

設置者	学校法人 四條畷学園
理事長名	中橋 清一
学長名	廣島 和夫
A L O	畑野 清司
開設年月日	昭和39年4月1日
所在地	大阪府大東市学園町6番45号

## 設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
保育学科		100
ライフデザイン総合学科		100
介護福祉学科		50
	合計	250

## 専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

## 通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

四條畷学園短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 18 年 6 月 22 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

当該短期大学の建学の精神は、「報恩感謝」であり、これを基本理念として、「尊敬される人間の育成」と「ぬくもりのある教育」を目指している点が的確に示されている。

各学科とも、教育目標を明確に示すとともに、教養科目、専門科目が体系的に設定され、学生のニーズに対応した教育課程となっている。授業内容は、シラバスにより、学生があらかじめ十分な情報が得られるように配慮されており、また、「学生による授業評価」や「授業についての満足度調査」が実施されている。その結果は教授会で公表され、授業改善の努力がされている。また、「教員相互による授業公開」、「本学の卒業生に対するアンケート調査」、「学生時代のアンケート」などにも積極的に取り組んでいる。

当該短期大学が設置する学科の教員数・施設設備は、短期大学設置基準の規定を充足しており、授業や学生生活のため快適な環境となっている。

学生支援に関しては、入学支援、学習支援、学生生活支援、進路支援など、充分な対応がとられており、特に就職支援に関しては、学生の携帯電話やパソコンから求人票にアクセスできるシステムが構築されている。

教員の研究活動に関しては、これまで、数ヶ年にわたり学科の新設・再編などで多忙を極めたことは予想されるが、教員間にかかなりの差があり、研究活動の環境は充分整備されていることから、今後の積極的な取り組みが必要である。

社会活動に関しては、音楽のシリーズ（グリムコンサート公開講座）が定着しており、社会人の受入れや社会人リフレッシュ教育講座の開設、教員の社会活動にも積極的に取り組んでいる。

学校法人は、理事会、評議員会など、規程に従い適切に運営されており、教学面では学長を中心に組織化されその機能を果たしている。学校法人の管理運営を円滑に行うため、学内 LAN（e-スクールシステム）が導入されており、各種伝達事項・相互の情報交換が効率的に実施されている。

財務面では「中・長期の財務計画」として、平成 16 年度に向こう 5 ヶ年の学園全体の計画を策定し、運営の適切化を図っている。

## 2. 三つの意見

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 新年互礼会など年 3 回、学園全体の教職員が一堂に会し、理事長の建学の精神・教育理念に関する講話や各種研究発表などにより、連携強化を図っている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 保育学科において、「認定ベビーシッター」資格の取得、「認定ピアヘルパー」受験資格の取得を目指した講座の開講は、「子どもの心を理解し、子どもと同じ目線に立った対応ができる保育者の養成」の教育目標の実現と、学生の新たなニーズに対応したものとなっている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 専任教員による授業公開を年 2 回実施しており、積極的に授業改善に取り組んでいる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 「学生による授業評価」を全教員、全科目で実施し、その結果を「授業評価報告書」として取りまとめ、教授会で配布・公表し授業改善の努力がされている。また、学生による「授業についての満足度調査」も別途実施し、報告書は教授会で配布・公表し授業改善の努力がされている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 就職情報である求人票は、保育学科では学生の携帯電話から、ライフデザイン総合学科ではパソコンからもアクセスできるシステムを構築しており、アクセス数も多く、効果的に活用されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 保育学科の学生を中心としたボランティア活動の「たんぽぽ」は、地元行政からも評価され、補助金も受けており、その活動実績は 10 年を超えている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 学内 LAN が導入され、各種伝達事項は、学内電子掲示板や電子回覧板を用いて即座に全教職員に伝達され、また、教職員の出退勤をはじめとする勤務状況の把握・確認、出張などの要許可・認可事項の申請、学内行事・施設利用などの確認も即座にできる。

評価領域Ⅸ 財務

- 平成 18 年度に「株式会社格付投資情報センター」による外部評価を実施し、格付評価を受けている。

**(2) 向上・充実のための課題**

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 履修人員が極端に少ない科目に対する授業内容の周知など、対策を講じることが望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

- 研究活動の環境は充分整備されていることから、今後の積極的な取り組みが必要である。

**(3) 早急に改善を要すると判断される事項**

なし

### 3. 領域別評価結果

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該短期大学の建学の精神は、「智・徳・体」を備えた家庭婦人の育成を目指した、「報恩感謝」であり、これを基本理念として、「尊敬される人間の育成」と「ぬくもりのある教育」をめざしており、建学の精神・教育理念が明確に確立されている。こうした建学の精神・教育理念は各学科の教育目的・教育目標にも明確に示されており、学科の教育内容見直しの際や学科の新設時に点検が行われている。

また、教職員については、年に3回、学園全体の集会において、理事長の講話により建学の精神・教育理念が必ず説明されるなど、機会あるごとに共有化が図られている。

さらに学生などに対しては入学式・卒業式の式辞をはじめ、年3回の学園新聞やオリエンテーション、入試説明会、パンフレット、ウェブサイトなどを通じて伝達されている。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

当該短期大学では、教養科目、専門科目が体系的に設定され、各学科とも学生のニーズに対応した教育課程となっている。特に保育学科の認定ベビーシッター資格の取得、認定ピアヘルパー受験資格の取得は、「子どもの心を理解し、子どもと同じ目線に立った対応ができる保育者の養成」という教育目標の実現を目指したものとなっている。また、ライフデザイン総合学科では、学生の多様なニーズに対応して、22種類の資格・免許などの取得を可能にしている。ただし、若干の科目で履修人員が少ないものがあるので、授業内容の周知など対策を講じることが望まれる。

また、シラバスについては、各学科とも共通認識により、授業の内容などや成績評価の方法についても学生があらかじめ十分な情報が得られるよう配慮されている。

授業内容については「学生による授業評価」が全教員、全科目で実施されており、また、学生による「授業についての満足度調査」も別途実施され、その結果を報告書として取りまとめ、教授会で配布・公表し授業改善の努力がされている。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

当該短期大学の設置する学科の教員数は、短期大学設置基準の規定を充足しており、教員の採用、昇任も適切に運用されている。また、教員は授業、学生指導、そのほか教育上の業務に対して意欲的に取り組んでいる。

教育実施にあたる責任体制は学長、学科長、担任教員の連携により確保されている。

また、短期大学の校地・校舎は短期大学設置基準の規定を充足しており、授業や学生生活のため快適な環境が確保されており、講義室、演習室、実習室、パソコン教室も充分整備されている。図書館は、学園町図書館（短期大学・高等学校・中学校共用）、北条図書館（大学・短期大学共用）に設置され、施設・蔵書は適切に整備されているが、図書館独自の予算制度がなく、学科予算で運営しているため、今後改善することが望まれる。

安全対策について、特に清風学舎については、駅前立地で通行量が多いため、入口に守衛所を設置し、警備員を常時配置することにより安全の確保が図られている。

### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

当該短期大学では、学生に対し「授業についての満足度調査」を組織的に実施し、その結果を報告書としてまとめ、教授会を通じて全教員に公表し、教育目標達成への努力を行っている。また、卒業生の就職先に対し、「本学の卒業生に対するアンケート調査」を実施し、教育の向上・改善に役立てるとともに、卒業生に対しても「学生時代のアンケート」を実施し、卒業生が当該短期大学の教育をどのように評価しているのか調査を実施している。

### 評価領域Ⅴ 学生支援

当該短期大学では、入学に関する支援体制、学習支援の組織的取組み、学生生活支援体制、進路支援体制、そして多様な学生に対する支援のいずれにおいても、満足できる対応が各学科ごとにとられている。また、アドミッション・ポリシーは大学案内およびウェブサイトにも明示されており、多様な選抜方法に始まり、事前教育と導入教育により、学生生活が円滑に開始されている。

また、入学後のオリエンテーションなどは日数をかけて十分に実施されており、学生の学習意欲向上に努めている。学生の精神的問題に対しては、学生相談室のほかに、臨床心理研究所を設置し、学生の相談しやすい環境を準備して対処している。

また、就職に関しても、学生の携帯電話やパソコンから求人票にアクセスできるシステムを構築している。

## 評価領域Ⅵ 研究

当該短期大学では、資格取得を目的とした学科が中心となっているため、研究以上に教育・指導に時間を費やしているのが実態である。教員の研究業績は、教員間に差があることから、今後は是正していかねばならない課題と思われる。

研究活動を行う環境は充分整備されていることから、今後は研究活動に一層力を入れていくことが望まれる。

## 評価領域Ⅶ 社会的活動

当該短期大学では、地域社会と密接した活動の重要性を認識しており、教育研究活動の成果を、地域社会に積極的に還元している。公開講座としては、音楽のシリーズ（グリムコンサート公開講座）が定着している。また、社会人の受け入れ（介護福祉学科）や社会人リフレッシュ教育講座（ライフデザイン総合学科）の開講や教員の社会活動にも積極的に取り組んでいる。

学生の社会活動としては、保育学科の学生を中心とした「たんぼぼ」は学生の主体的ボランティアグループであり、児童養護施設、知的障害者更生・授産施設などにおける足かけ 10 年の実績がある。こうした活動は単位認定の対象としているが、単位認定と関係なくボランティア活動に参加している学生も多い。

## 評価領域Ⅷ 管理運営

当該短期大学を設置する学校法人の運営体制は、理事会をはじめ評議員会および監事機能など、適切に運営されている。

また教学面では、学長を中心とする教授会のもと各委員会が組織化されその機能を果たしている。

人事管理においては、就業規則に則った運営がされている。

また、学校法人の管理運営を円滑に行うため、学内 LAN が導入されており、理事者、教員、事務職員間の各種伝達事項はもとより相互の情報交換が効率的に実施されている。

## 評価領域Ⅸ 財務

当該短期大学を設置する学校法人は、「中・長期の財務計画」として、平成 16 年度に 20 年度までの 5 ヶ年を展望した「資金収支予算総括表」、「消費収支予算決算総括表」を策定し、運営の適切化を図っている。今年度新設の介護福祉学科の定員充足が望まれる。

当該学校法人は無借金経営であり、平成 18 年度に「株式会社格付投資情報センター」による外部評価を実施し、格付評価を受けている。



## 評価領域Ⅹ 改革・改善

当該短期大学では、「四條畷学園短期大学自己点検・自己評価委員会規定」を設け、全教員の協力のもとに組織的に点検・評価の実施制度が確立されている。学生による「授業評価」や「授業についての満足度調査」を実施し、報告書などにより教授会を通じて教員相互間に公表され、改革・改善に結びつける努力がされており、「教員相互による授業公開」にも積極的に取り組んでいる。

また、堺女子短期大学との間で「相互評価委員会」を設け相互評価を実施している。